
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況 (2016年1月～3月)

気象庁

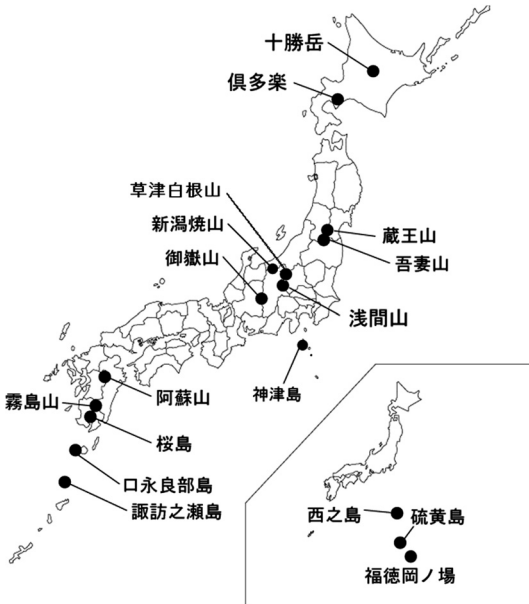


図1. 2016年1月～3月に目立った活動があった火山

十勝岳 (43° 25′ 04″ N, 142° 41′ 11″ E)

1月15日に第一管区海上保安本部の協力により実施した上空からの観測では、62-2火口や大正火口の状況に特段の変化はみられなかったが、2015年6月の現地調査以降に確認されている振子沢噴気孔群の地熱域や前十勝の列状の噴気に対応する融雪域が認められており、62-2火口とその周辺では熱活動がやや高い状態が継続していると考えられる。

火山性地震は概ね少ない状態で経過した。3月5日には振幅の小さな火山性微動が発生し、一時的に火山性地震が増加した。この時62-2火口や大正火口の噴煙の状況に変化はなかった。十勝岳で火山性微動が発生したのは2015年6月22日以来である。

GNSSによる観測では、2006年以降、62-2火口浅部の膨張を示すと考えられる変動が認められている。

倶多楽 (42° 30′ 19″ N, 141° 08′ 40″ E (日和山))

2月4日から6日にかけて倶多楽の西側を震源とする地震が一時的に増加した。最大の地震は2月4日18時

06分のマグニチュード2.5(暫定値)であった。地震増加時にその他の観測データに特段の変化はなく、その後火山性地震は少ない状態で経過した。

蔵王山 (38° 08′ 37″ N, 140° 26′ 24″ E)

火山性微動が1月に3回、3月に1回発生した。そのうち1月1日19時35分頃に発生した火山性微動の発生に先行して、南東方向(山頂の南側)が上がるようなわずかな傾斜変動を観測し、発生直後はわずかな南東方向下がりの変化がみられ、火山性微動発生前の状況に戻っている。

2月16日及び18日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、御釜とその周辺に噴気及び地熱域はみられなかった。また、丸山沢噴気地帯など馬の背カルデラ内に異常は認められなかった。

2013年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されるなど、火山活動はやや高まった状態にある。

吾妻山 (37° 44′ 07″ N, 140° 14′ 40″ E)

3月28日から火山性地震が増加し始め、期間中は多い状態で経過した。3月31日に実施した現地調査では、大穴火口の噴気に変化はみられず、大穴火口周辺の地熱域に拡大等の変化はみられなかった。

浄土平観測点の傾斜計では、2014年7月頃から西南西側(火口方向側)上がりの変動が観測されていたが、2015年7月頃から停滞し、9月頃から西側下がりの傾向となっている。

GNSS連続観測では、2014年9月頃から一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていたが、2015年7月頃から停滞または縮みの傾向となっている。国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、2014年12月頃から一部の基線で山体の膨張を示す地殻変動がみられていたが、2015年7月頃から停滞し、10月頃から収縮に転じている。

草津白根山 (36° 38′ 38″ N, 138° 31′ 40″ E)

湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にかけての斜面で熱活動の活発な状態が継続している。

2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加したが、2014年8月下旬以降は概ねやや少ない状態で経過している。

GNSS連続観測では、湯釜を挟む基線で2014年4月頃からわずかな伸びの変化がみられていたが、2015年4

月頃より鈍化している。また、湯釜周辺に設置している東京工業大学の傾斜計によると、2014年3月からみられている湯釜付近浅部での膨張を示す変動は、2015年11月頃から停滞傾向が認められる。

東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分にも火山活動の活発化を示す変化が継続している。また、全磁力観測による2014年5月頃からみられていた湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、2014年7月以降停滞している。

浅間山 (36° 24′ 23″N, 138° 31′ 23″E)

2015年6月19日の噴火後、噴火は観測されていない。今期間実施した現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量が1月は1日あたり700~900トンとやや多い状態であったが、2月以降は200~300トンとやや少ない状態で経過した。火口からの噴煙は白色で、火口縁上300m以下で経過している。山頂火口では前期間に引き続き、高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映が1月1日と3日に観測されたが、その後はみられていない。

2015年4月下旬頃から増加している山頂火口直下のごく浅い所を震源とする体を感じない火山性地震は、2015年8月以降やや減少しているが、引き続き多い状態が継続している。

新潟焼山 (36° 55′ 15″N, 138° 02′ 09″E)

2015年夏頃から噴煙がやや高く上がる傾向が認められ、12月下旬からは噴煙量も多くなっている。1月28日に国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所の協力により実施した上空からの観測では、山頂火口からの白色噴煙が火口縁上約100mまで上がっているのを確認した。また、火口付近に地熱域を確認している。2月8日に山麓で実施した現地調査でも白色の噴煙がやや高く上がっているのを確認した。

火山性地震は少ない状態で経過したが、2015年以降の地震回数は、2014年以前と比べてやや増加している。

御嶽山 (35° 53′ 34″N, 137° 28′ 49″E)

2014年10月中旬以降、噴火の発生はなく、火山活動は緩やかな低下傾向が継続している。火口列からの噴煙活動や地震活動は続いている。遠望カメラ等による観測では、白色の噴煙が火口縁上600m以下の高さで経過した。

火山性地震は少ない状態で経過したが、2014年8月以前の状態には戻っていない。

神津島 (34° 13′ 10″N, 139° 09′ 11″E)

天上山付近のごく浅いところが震源とみられる地震を

3月に5回観測した。地震の発生時に傾斜変動を伴うものもあった。これ以外で神津島を震源とする地震はなく、遠望観測では特段の変化は認められなかった。

3月4日及び29日に海上保安庁が実施した上空からの観測、3月30日に実施した現地調査では、天上山山頂付近及びその周辺に噴気や地熱域は認められなかった。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

西之島 (27° 14′ 49″N, 140° 52′ 28″E)

海上保安庁、海上自衛隊等の観測によると、2015年11月下旬以降噴火及び溶岩の流出は確認されず、12月以降は地表面温度の低下が確認されている。1月19日、2月3日、3月5日及び29日に海上保安庁、1月3日、15日、2月16日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測でも、調査中に噴火は認められなかった。新たな陸地の大きさは、3月5日の観測時点で東西方向に約1,940m、南北方向は約1,930m、面積は約2.63km²であった。

硫黄島 (24° 45′ 02″N, 141° 17′ 21″E (摺鉢山))

ミリオンダラーホール(旧噴火口)では、2012年2月上旬から水蒸気爆発が度々発生しているが、今期間、噴火の発生はなかった。

火山性地震は、やや少ない状態で経過した。火山性微動が時々発生したが、火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに特段の変化は認められなかった。

GNSS観測によると、地殻変動は隆起・停滞を繰り返しており、2014年以降は、島の北部ほど隆起が大きい状態が継続している。

福徳岡ノ場 (24° 17′ 05″N, 141° 28′ 52″E)

3月7日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、福徳岡ノ場において長さ約1,000m、幅約200~300mの帯状に伸びたごく薄い変色水を確認した。

福徳岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生している。

阿蘇山 (32° 53′ 01″N, 131° 05′ 49″E (中岳))

中岳第一火口では、2月17日03時30分頃、18日16時57分及び3月4日06時56分頃に噴火が発生した。2月17日に実施した現地調査及び聞き取り調査では、火口から南東方向の高森町で降灰を確認した。また、中岳第一火口南西側の火口壁に、2月17日の噴火に伴うと思われる新たな噴石の落下跡を確認した。2月18日の噴火では、噴煙が火口縁上1,600mまで上がった。遠望カ

メラで火口から北西約 400 m に噴石が飛散するのを確認した。2 月 18 日に実施した現地調査では、火口から北東方向の阿蘇市で降灰を確認した。3 月 4 日の噴火では、噴煙が火口縁上 1,000 m まで上がった。同日実施した現地調査では、中岳第一火口の東北東から東側でわずかに降灰を確認した。

今期間実施した現地調査で中岳第一火口内に湯だまりを確認した。3 月に産業技術総合研究所及び気象庁が実施した現地調査では、中岳第一火口内の湯だまり内で高さ 5 m 以下の土砂噴出を確認した。

1 月 20 日 11 時 23 分に中岳第一火口付近のごく浅い所を震源とする振幅の大きな火山性地震が発生し、南阿蘇村中松で震度 1 を観測した。火山性地震により震度 1 以上を観測したのは、2015 年 12 月 4 日（震度 1）以来であった。その他、火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動の振幅は、消長を繰り返しながら概ね大きな状態で経過していたが、3 月 16 日以降は小さな状態となった。孤立型微動の発生は概ね多い状態であった。

今期間産業技術総合研究所及び気象庁が実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は 1 日あたり 300~2,500 トンと概ね多い状態であった。

霧島山（新燃岳）(31° 54' 34" N, 130° 53' 11" E)

新燃岳では、今期間噴火の発生はなかった。

火山性地震の月回数は 1 月が 52 回、2 月が 459 回、3 月は 38 回であった。中でも、2 月 14 日からは地震回数が増加し、23 日には日回数 155 回と一時的に多い状態になった。26 日以降は少ない状態となった。これらの地震の震源は、主に新燃岳付近のごく浅いところから海拔下 2 km に分布した。

2 月 24 日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した現地調査及び鹿児島県の協力を得て実施した上空からの観測では、噴気や火口内に蓄積された溶岩の形状や大きさに特段の変化は認められなかった。赤外熱映像装置による観測では、火口内及び西側斜面の割れ目の熱異常域の分布にも変化は認められなかった。

GNSS 連続観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015 年 1 月頃から停滞している。一方、新燃岳周辺の一部の基線で、わずかに伸びの傾向が認められていたが、10 月頃から停滞している。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）(31° 56' 49" N, 130° 51' 14" E（硫黄山）)

えびの高原（硫黄山）周辺では、1 月 2 日に継続時間約 2 分 30 秒の振幅の小さな火山性微動が発生した。この

火山性微動に伴い、韓国岳の北東の傾斜計で北西方向がわずかに隆起するような傾斜変動を観測した。また、2 月 7 日から 10 日にかけて、継続時間が 1~5 分程度の振幅の小さな火山性微動が 4 回発生した。この火山性微動に伴い、硫黄山の北西方向が一時的に上がり、40~80 分程度かけて元に戻る地殻変動が観測された。その後、火山性微動は観測されていない。

2 月 28 日にえびの高原（硫黄山）周辺の浅いところを震源とする地震が増加し、日回数で 53 回となった。

その後は少ない状態で経過した。

今期間実施した現地調査で新たな噴気地帯や熱異常域の拡大を確認するなど、硫黄山の火口周辺の噴気地帯は拡大傾向にあるが、温度や噴気の量に大きな変化は認められていない。

桜島 (31° 34' 38" N, 130° 39' 32" E (南岳))

昭和火口では、2 月 5 日に爆発的噴火が発生した。この噴火により、噴煙が火口縁上 2,200 m まで上がり、噴石が昭和火口から 1,300~1,800 m まで達した。その後も噴火活動が継続し、噴火の回数は 2 月が 55 回（そのうち爆発的噴火は 22 回）、3 月が 8 回（そのうち爆発的噴火は 5 回）であった。また、南岳山頂火口では、2 月 8 日と 20 日にごく小規模な噴火が発生し、噴煙が最大で火口縁上 800 m まで上がった。3 月には噴火が 6 回観測され、噴煙は最高で火口縁上 2,000 m まで上がった。

2 月 6 日に気象庁機動調査班（JMA-MOT）が鹿児島県の協力を得て実施した上空からの観測では、昭和火口近傍及び南岳南東側山腹ではこれまでの観測と同様に熱異常域が観測され、特段の変化は認められなかった。

火山性地震の月回数は、1 月は 33 回、2 月は 486 回、3 月は 129 回であった。火山性微動継続時間の月合計は、2 月は 14 時間 53 分、3 月は 1 時間 39 分であった。1 月には火山性微動は発生しなかった。

今期間実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は 1 日あたり 100~500 トンと概ね少ない状態で経過した。

桜島島内での傾斜計及び伸縮計による観測では、2015 年 8 月の急激な変動以降、顕著な山体膨張を示す地殻変動はみられていない。爆発的噴火の発生にともなって、伸縮計の火口に直交する方向で、これまでと同様にわずかな伸張と収縮が観測されている。GNSS による観測では、2015 年 8 月の急激な山体膨張の変動以降、収縮傾向が続いていたが、2016 年 1 月頃から停滞している。始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張を示す伸びの傾向は、8 月の急激な変動後も引き続きみられている。

鹿児島地方気象台における月（合計）降灰量は、2 月に

4 g/m², 3月に0.5 g/m²未満(1月は降灰なし)であった。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、1月が約3万トン、2月及び3月がいずれも約10万トンと、少ない状態で経過した。

口永良部島 (30° 26′ 36″N, 130° 13′ 02″E)

新岳では、6月19日の噴火後、噴火は観測されていない。火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されていない。遠望カメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上400m以下で経過した。

現地調査では、火口周辺の地形や噴気等の状況に変化はみられなかった。また、赤外線映像装置による観測では、2015年5月29日の噴火前に温度上昇が認められていた新岳火口西側割れ目付近の領域の温度は引き続き低下した状態であった。

今期間に東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、産業技術総合研究所、屋久島町及び気象庁が実施した火山ガス観測では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり50~100トンと概ね少ない状態であった。

地殻変動観測では、2015年5月29日の噴火以降に特段の変化は認められない。

諏訪之瀬島 (29° 38′ 18″N, 129° 42′ 50″E (御岳))

御岳火口では、爆発的噴火が1月に1回、3月に13回発生した(2月はなし)。このほか、噴火も時々発生し、噴火に伴う灰白色の噴煙が最高で火口縁上1,700mまで上がった。期間を通して夜間に高感度カメラで火映を時々観測した。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、1月22日、23日、2月22日、3月7日、20日及び21日に集落(御岳の南南西約4km)で降灰が確認された。また、3月20日及び21日に鳴動が確認された。

(お知らせ)最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm
(文責:気象庁地震火山部火山課 和田さやか)

○公募等

締切等が過ぎているものも記録のため掲載してあります。

最新の情報につきましては、メーリングリスト等にて随時ご案内しております。

○人事公募

【東京工業大学火山流体研究センター】

- 募集職種: 研究員・1名
- 応募資格: 年齢制限無し。博士の学位を取得していることが望ましい。
- 業務内容: 当センター教員と協力して、関連する分野における研究を行う。
詳細は以下を参照。 <http://www.ksvo.titech.ac.jp/>
- 勤務地:
火山流体研究センター草津白根火山観測所(群馬県吾妻郡草津町草津 641-36)
あるいは
火山流体研究センター大岡山キャンパス(東京都目黒区大岡山 2-12-1)
- 応募書類:
 - 履歴書(写真貼付): 学歴(高校卒業以降)、職歴、資格、賞罰
 - 業績目録: 査読論文、査読なし論文、学会発表に分類すること。
 - これまでの研究の概要および今後の研究の抱負(各A4で1枚)
 - 主要論文別刷: 5編以内(PDF)
- 応募方法: 応募書類を指定されたアドレスに電子メールの添付ファイルとして送付する。
- 応募締切: 平成28年2月26日(金)必着
- 選考方法: 書類選考による。面接をすることもある。
- 内定通知: 採用者には電子メールにて3月4日(金)までに通知する。
- 雇用期間: 平成28年4月1日以降なるべく早い時期~平成29年3月31日
※更新の可能性有り(最長で5年間)
- 給与: 能力・実績に応じた年俸制
- 勤務時間等: 週5日・週30時間の勤務、休日(土日、祝日、年末年始(12/29~1/3))
有給休暇及びその他の休暇制度あり
- 社会保険等: 労働者災害補償保険・厚生年金・健康保険・雇用保険
- 応募書類提出先 および 問い合わせ先
以下のアドレスに電子メールの添付ファイルとして提出すること。郵送では受け付けない。応募者に対しては、受信を確認したメールを返信する。
東京工業大学火山流体研究センター教授
小川康雄 oga@ksvo.titech.ac.jp
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストにて2月16日送信しました)

【東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター】

1. 職名及び募集人員：助教 1名
2. 所属：東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター
3. 研究教育内容等：地球物理学的諸観測やデータ解析、あるいは実験・シミュレーション等に基づいて、地震・火山噴火予知のための基礎研究を行う。また、学部における地球物理学・物理学に関する教育、ならびに大学院における教育と研究指導を担当する。
4. 採用予定時期：2016年6月1日を目処としたできるだけ早い時期
5. 応募資格：採用時に博士の学位を有し、研究・教育への情熱と優れた業績があること。
6. 提出書類：（応募書類は返却しません）
 - (1) 履歴書（市販用紙可）
 - (2) 業績リスト（査読の有無を区別すること、投稿中の論文についてはその旨明示すること）
 - (3) 主要論文の別刷り（コピー可）1-3編程度
 - (4) 研究業績の概要（2000字程度）
 - (5) 着任後の研究及び教育についての計画と抱負（2000字程度）
 - (6) 応募者に関して意見を聞ける方2名の氏名とその連絡先、ならびに応募者との関係
7. 応募締切：2016年4月1日（金）必着
8. 問い合わせ先：東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター 松澤 暢
Tel: (022) 225-1950, Fax: (022) 264-3292
E-mail: toru.matsuzawa.c6@tohoku.ac.jp（「at」を「@」に読み替えてください）
9. 応募書類提出先：〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター センター長 松澤 暢 宛
※封書の表に「教員応募書類」と朱書きし、書留郵便で送付して下さい。
10. 地震・噴火予知研究観測センターの概要：当センターの歴史は1912年に設置された理科大学附属観象所に始まり、1965年から始まった地震予知研究計画以降、災害の軽減に貢献するために、地震予知・火山噴火予知の基礎研究を推進しています。現在は本学理学研究科地球物理学専攻固体地球物理学講座および災害科学国際研究所の関係部門の教職員とも協力しながら教育・研究を行っています。
詳しくは当センターのホームページ <http://www.aob.gp.tohoku.ac.jp/> をご覧下さい。

11. 男女共同参画

東北大学は、男女共同参画を積極的に推進し女性教員を支援しています。詳しくは、
<https://www.bureau.tohoku.ac.jp/danryo/>及び
<http://www.morihime.tohoku.ac.jp/> をご覧ください。
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月23日送信しました）

【防災科学技術研究所】

火山研究プロジェクト 契約研究員の公募

業務内容：火山研究業務において、下記の研究開発を行う。

- (1) 火山噴火過程の包括的物理モデルの構築を担当する。
応募資格：

- (1) 博士の学位を有する者（平成28年3月までに取得見込みの者を含む）またはこれと同等以上の学識経験を有するものであって、研究開発業務に従事するための十分な能力を有すること
- (2) 本業務の遂行に関連する火山学に関して十分な知識、研究能力を有すること
- (3) 国際連携による研究活動を積極的に行う能力を有すること

勤務地：防災科学技術研究所（茨城県つくば市天王台3-1）

任期・雇用期間：平成28年4月1日から平成33年3月31日まで*

雇用契約の期間は、1事業年度毎とし、予算の状況、従事している業務の必要性及び勤務成績により、更新となる。

※再任の可能性あり

給与等：当所規程により決定

提出書類：

1. 履歴書（別紙様式1）
2. 主要研究概要（別紙様式2）
3. 業績リスト（別紙様式3）
4. 今後の研究に関する抱負（別紙様式4）
5. 推薦書（自薦の場合は意見書：様式の指定なし）
6. 参考資料として、主要論文の別刷（3編以内：コピー可）

※別紙様式は当所指定様式をダウンロードして作成してください。

※封筒に「契約研究員（火山シミュレーション）応募書類在中」と朱書きし、簡易書留郵便にて送付してください。

※本募集に関連して提出された個人情報については選考の目的に限って使用し、選考終了後は再洋された方の情報を除き、全ての個人情報は責任を持っ

て破棄します。

応募期限: 平成 28 年 2 月 29 日 (月) 必着

面接予定: 平成 28 年 3 月

※書類審査等により面接者を選考し、該当者にはご連絡します。

着任時期: 平成 28 年 4 月 1 日

担当研究者: 観測・予測研究領域 地震・火山防災研究
ユニット 棚田俊收

TEL: 029-863-7571

FAX: 029-851-5658

送付先及び問い合わせ:

〒305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1

国立研究開発法人防災科学技術研究所

総務部総務グループ総務チーム 丸

TEL: 029-863-7718 (ダイヤルイン)

FAX: 029-851-3246

E-mail: koubo@bosai.go.jp

<http://www.bosai.go.jp/tender/recruit.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 2 月 25 日送信しました)

【防災科学技術研究所】

火山観測データ一元化の技術開発 契約研究員の公募

業務内容: 火山研究推進プロジェクトにおいて、下記の研究開発を行う。

- (1) 多項目火山観測データの一元化共有システムの開発・運用
- (2) 一元化火山観測データを活用した火山活動評価・予測技術の開発

応募資格:

- (1) 博士の学位を有する者(平成 28 年 3 月までに取得見込みの者を含む)またはこれと同等以上の学識経験を有するものであって、研究開発業務に従事するための十分な能力を有すること
- (2) 本業務の遂行に関連する火山物理学もしくは地震学分野に関する十分な知識、及び、研究開発の能力を有すること
- (3) 自分の専門分野だけでなく火山災害に関する他の研究分野に対して広い関心があり、他分野との連携に積極的に取り組む人

勤務地: 防災科学技術研究所(茨城県つくば市天王台 3-1)

任期・雇用期間: 平成 28 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日まで*

雇用契約の期間は、1 事業年度毎とし、予算の状況、従事している業務の必要性及び勤務成

績により、更新となる。

※再任の可能性あり

給与等: 当所規程により決定

提出書類:

1. 履歴書(別紙様式 1)
2. 主要研究概要(別紙様式 2)
3. 業績リスト(別紙様式 3)
4. 今後の研究に関する抱負(別紙様式 4)
5. 推薦書(自薦の場合は意見書: 様式の指定なし)
6. 参考資料として、主要論文の別刷(3 編以内: コピー可)
7. TOEFL, TOEIC, 英検など英語能力検定の成績証明書のコピー

※別紙様式は当所指定様式をダウンロードして作成してください。

※封筒に「契約研究員(火山一元化)応募書類在中」と朱書きし、簡易書留郵便にて送付してください。

※本募集に関連して提出された個人情報については選考の目的に限って使用し、選考終了後は再洋された方の情報を除き、全ての個人情報は責任を持って破棄します。

応募期限: 平成 28 年 2 月 29 日 (月) 必着

面接予定: 平成 28 年 3 月

※書類審査等により面接者を選考し、該当者にはご連絡します。

着任時期: 平成 28 年 4 月 1 日

担当研究者: 観測・予測研究領域 地震・火山防災研究
ユニット 棚田俊收

TEL: 029-863-7571

FAX: 029-851-5658

送付先及び問い合わせ:

〒305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1

国立研究開発法人防災科学技術研究所

総務部総務グループ総務チーム 丸

TEL: 029-863-7718 (ダイヤルイン)

FAX: 029-851-3246

E-mail: koubo@bosai.go.jp

<http://www.bosai.go.jp/tender/recruit.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 2 月 25 日送信しました)

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員: 助教(任期付) 1 名
2. 所属: 高エネルギー素粒子地球物理学研究センター
3. 研究分野: 高エネルギー素粒子地球物理学分野
地震研究所では、これまで革新的観測技術として、

地表設置型の宇宙線観測装置を開発し、宇宙線ミュオンを用いて火山体内部構造を視覚化するなどの、画期的な物体透視の研究を進めてきた。本公募では、上記の研究を着実に進展させる人材を募集する。なお、本公募で採用された者は、火山近傍などの商用電源の利用が困難な環境下での観測技術開発に取り組むとともに、他の地球物理学的手法との連携を通じて、地球科学的イメージング技法の高度化に貢献することが期待されている。また、このような研究活動、および大学院教育を通じて、次世代の人材育成にかかわることも期待されている。

4. 採用予定時期: 決定後できるだけ早い時期
5. 応募資格: 着任時に博士の学位を有する者(学位取得見込者を含む)
6. 任期: 5年。再任は1回(1年)のみ可。

満55歳を超える教員については、その次年度の初めに教員の所属する組織(分野)の職に5年以内の任期を定める。その場合、再任は本研究所教授会の承認を得た場合に1回限り可とする(ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない)。

7. 提出書類: 【提出書類は返却しません】
 - (1) 東京大学統一履歴書(本学様式を http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html よりダウンロードのうえ使用してください。記入例は「記入例7[理系教員]」を参照)
 - (2) 研究業績リスト(査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。)
 - (3) 主要論文の別刷り3編程度(コピー可)
 - (4) 研究業績の概要(2000字程度)
 - (5) 今後の研究計画(2000字程度)
 - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2名)の氏名・所属とe-mailアドレス
8. 応募締切: 平成28年4月11日(月)正午必着
9. 問い合わせ先: 東京大学地震研究所 観測開発基盤センター 新谷昌人
TEL: 03-5841-5821 E-mail: araya@eri.u-tokyo.ac.jp
10. 応募書類提出先: 〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学地震研究所 庶務チーム(人事)宛
封書を用い、表に「高エネルギー分野 助教 応募書類 在申中」と朱書きし、書留郵便で送付してください。
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月25日送信しました)

【産業技術総合研究所】

※平成28年5月11日17:00必着

公募課題名: 噴火メカニズムに関する物質科学的研究

噴火メカニズムに関する研究を推進するため、火山噴出物・火山ガスの物質科学的・地球化学的観測に基づく研究を行う研究者を募集する。マグマの熱力学的反応や組織形成論、もしくは火山性流体の化学反応論や観測手法に関する地球化学のいずれかの研究経験を有すること、研究遂行に当たっては、物質科学的研究を基礎に、関連する火山地質分野や火山物理学分野の研究者と共同研究を行える研究者が望ましい。

募集人数 2名(テニュアトラック型任期付またはパーマネント型研究員)

公募課題名 火山性地殻変動のモデル化に関する研究

マグマ供給系変動に関する研究を推進するため、マグマ活動にともなう地殻変動メカニズムの理論的研究に卓越した研究者を募集する。地殻・マントルのレオロジー構造を反映した理論的な変動モデルの構築およびその火山地域における実際の変動観測量への適用に関する学際的研究の実績を有すること。

募集人数 1名(年俸制任期付研究員)

http://www.aist.go.jp/aist_j/humanres/02kenkyu/index.html
http://www.aist.go.jp/aist_j/humanres/02kenkyu/task/6_gsj.html#koumoku10

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月4日送信しました)

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員: 助教1名
2. 所属: 採用後に決定
3. 研究分野: 海域地殻活動観測分野

地震研究所では、海域観測機器開発から多点機動観測による海域地殻活動の解明まで、海域における一貫した研究を推進している。近年、海底ケーブル観測に代表される海域の基盤的観測の整備が進み、沈み込み帯における地殻活動の観測研究に新たな展開をもたらそうとしている。海域地殻活動の詳細や新たな地球科学的現象を見出すには、最適な物理量の観測と精度が必要であり、基盤的観測だけではなく、研究対象に即した柔軟な機動的観測を統合したアプローチが必要不可欠である。本公募では、沈み込み帯で進行しているプレート間相互作用等の地殻活動の全貌解明を目的として、海域基盤的観測等から検出される様々な時定数を持つ海底地殻活動について、その発現から終焉に至る全過程を明らかにす

るため、基盤的観測等を活用した機動観測を立案・実施し、更に機動的観測データと基盤的観測データを統合・統一的に解析するための先端的研究手法を開発・応用する人材を募集する。また、このような研究活動と大学院教育によって、次世代の人材育成に貢献することが期待される。

4. 採用予定時期: 採用決定後のできるだけ早い時期
5. 応募資格: 博士の学位を有する者(外国での同等の学位を含む)
6. 任期について: 本研究所の教員の任期に関する内規により、満55歳を超える教員については、次年度の初めに教員の所属する組織(分野)の職に5年以内の任期を定める。再任は本研究所教授会の承認を得た場合に1回限り可とする(ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない)。また、本公募により雇用された助教は、採用後10年を目処に教授会による総合的評価が行われる。なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。
7. 提出書類: 【提出書類は返却しません】
 - (1) 東京大学統一履歴書(本学様式)

http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html よりダウンロードのうえ使用してください。記入例は「記入例7[理系教員]を参照」)
 - (2) 業績リスト(査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。)
 - (3) 主要論文の別刷り3編程度(コピー可)
 - (4) 研究業績の概要(2000字程度)
 - (5) 今後の研究計画(2000字程度)
 - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2名)の氏名と連絡先、E-mailアドレス
8. 応募締切: 平成28年7月14日(木)午後4時必着
9. 問い合わせ先: 東京大学地震研究所 地震火山情報センター 佐竹健治

TEL: (03) 5841-0219 E-mail: satake@eri.u-tokyo.ac.jp
10. 応募書類提出先:

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所 庶務チーム(人事)宛

封書を用い、表に「海域地殻活動観測分野 助教応募書類在中」と朱書し、書留郵便で送付してください。

◎東京大学は2009年3月3日「男女共同参画加速のための宣言」を発表しました。

この宣言に基づき、教員・研究員の公募の際に、女性の応募を歓迎します。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月13

日送信しました)

【伊豆大島ジオパーク推進委員会事務局】

職種: ジオパーク専門員

人数: 1名

任期: 平成28年6月1日～平成29年3月31日

※任期更新の場合、最長3年(専門的な知識経験を有する場合最長5年)

勤務条件:

【勤務場所】 東京都大島町役場

(東京都大島町元町1-1-14)

【勤務時間】 8時30分～17時15分

【休日】 土・日・祝日・年末年始

【休暇】 採用月により付与(2年目以降年20日)

【初任給】 大島町初任給・昇格・昇給等の基準に関する規則に基づき支給(昇給あり、昇格なし)

【手当】 期末、勤勉手当・通勤手当・超過勤務手当・住宅手当・扶養手当

【社会保険】 適用

申込期限: 平成28年5月10日(火)必着

応募資格等の詳細は、以下をご覧ください。

<http://www.town.oshima.tokyo.jp/soshiki/soumu/syokuinjio.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月20日送信しました)

【神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻】

1. 職名・募集人員: 准教授 1名

2. 所属: 惑星学専攻

3. 専門分野: 岩石学・鉱物学・火山学

4. 職務内容:

岩石学・鉱物学・火山学の分野において地球型惑星の進化に関する教育・研究を推進して頂きます。特に、平成27年10月に神戸大学が全学共同教育研究組織として設置した海洋底探査センターの構成員と連携して教育と研究を進め、惑星学の発展に貢献する意欲のある方を希望します。また、理学研究科惑星学専攻ならびに理学部惑星学科における教育に従事し、全学共通科目を担当して頂きます。

5. 詳細は下記を参照ください。

<http://www.planet.sci.kobe-u.ac.jp/>

http://www.planet.sci.kobe-u.ac.jp/kobo/Kobo_20160422.pdf

※応募締め切り: 平成28年6月30日(木)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月25日送信しました)

【国立研究開発法人海洋研究開発機構】

国立研究開発法人海洋研究開発機構では、国際ポストドクトラル研究員5名の公募を行っております。

詳しくは下記リンクをご参照下さい。

<http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/jinji20160525.html>

http://www.jamstec.go.jp/e/about/recruit/jinji_20160525.html

【締切】2016年5月25日(水)必着

【問い合わせ先】

国立研究開発法人海洋研究開発機構

人事部人事第2課

jinji2@jamstec.go.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月27日送信しました)

【名古屋大学】

1. 職名・募集人員: 准教授(任期なし)・1名
2. 所属: 名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究センター(以下センターと言う)
3. 専門分野: 地震学または測地学。特に観測および観測データの解析を通して、地震発生や火山噴火の総合的なモデル化に貢献する研究分野。
4. 期待される役割:

- ・センターにおける観測研究を主導的に推進すること。
- ・南海トラフの巨大地震または御嶽山の火山活動に関する研究に貢献すること。
- ・科学技術学術審議会測地学分科会建議「災害軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」の推進に貢献すること。
- ・名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻および同理学部地球惑星科学科における教育・研究指導を通して、地震火山分野における次世代を担う人材を育成すること。
- ・全学教育科目を担当すること。

5. 応募資格

- ・博士の学位を有すること。
- ・大学院生の実質的な研究指導実績を有すること。
- ・国籍は問わないが日常的な日本語会話ができること。

6. 任用時期 決定後出来るだけ早い時期

7. 提出書類

- (1) 履歴書
- (2) 業績リスト(著書, 査読つき論文, その他の論文, 解説・論説に分類すること)
- (3) 教育・研究・社会活動等の実績(A4用紙2枚以下)

(4) 主要論文(3編以内)の別刷りまたはコピー

(5) 着任後の研究に関する抱負(A4用紙2枚程度)

(6) 着任後の学生への研究指導に関する抱負(A4用紙1枚程度)

(7) センターの研究と社会貢献に関する展望(A4用紙1枚程度)

(8) 上記の電子ファイルを収めたDVDまたはCD

8. 締め切り 平成28(2016)年6月17日(金曜日)必着

9. 提出先 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 D2-2 (510) 名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究センター 山岡耕春 宛

封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書きし、書留または簡易書留にて郵送して下さい。

なお、応募書類は返却しません。また応募書類に含まれる個人情報、国立大学法人名古屋大学の定めに従い、本人事選考のみに使用し、他の目的には一切使用しません。

10. その他

- (1) 選考途中で、必要に応じ面接を行う場合があります。
- (2) 研究・教育の力量の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用します。
- (3) 名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究センターの詳細はホームページ(<http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/>)を参照してください。
- (4) 連絡・問い合わせ先
山岡耕春
電話: 052-789-3046
電子メール: kyamaoka@seis.nagoya-u.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月10日送信しました)

【神戸大学】

機関または部署: URL<http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/>

部署名: 大学院海事科学研究科

求人内容:

国立大学法人神戸大学大学院海事科学研究科海事マネジメント科学講座准教授または講師【海域火山のリスク科学分野】(テニュアトラック教員)を1名募集します。(2017年度に研究科改組を予定しています)

任期: 5年

※任期中にテニュア取得審査(任期を定めない雇用への変更についての審査)を行い、業績評価等に基づき任期のない教員としての採用の可否を決定します。

専門分野: 海底火山を含む、海域火山の活動に対する科学的リスク評価

担当科目:【学部】海事災害比較論

勤務地住所:兵庫県神戸市東灘区深江南町 5-1-1

募集人員:1名 准教授 または 講師(テニュアトラック教員)

着任時期:2016年10月01日

その他の着任時期については相談に応じます。

研究分野:大分類数物系科学

小分類地質学(火山・活断層・災害地質,など)

職種:准教授・常勤専任講師相当

勤務形態:

常勤(テニュアトラック)

任期:5年

※任期中にテニュア取得審査(任期を定めない雇用への変更についての審査)を行い、業績評価等に基づき任期のない教員としての採用の可否を決定します。

勤務地:近畿-兵庫県

応募資格:

- 1) 博士の学位を有する又は着任までに取得見込みであること。
- 2) 火山学及びそれに関連する優れた研究業績を有し、海底火山を含む海域火山に対する科学的なリスク評価研究に取り組む熱意を有すること。
求人公募情報検索:研究者人材データベース JREC-IN Portal 2016/05/06 16:37
https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=3&id=D116040122&ln_jor=0&print=1 2/2 ページ
- 3) 神戸大学テニュアトラックプログラムの趣旨を理解し、内外に示すことのできる研究成果を生み出して、教授あるいは准教授となり、海事科学研究科の新しい研究分野の創出に貢献する熱意を有すること。
- 4) 授業や研究指導を日本語および英語でできること。日本語を母語としない場合、職務上必要な程度の日本語運用能力があること。

待遇:

勤務時間等:国立大学法人神戸大学就業規則、国立大学法人神戸大学職員の労働時間、休日及び休暇等に関する規程等による(※専門業務型裁量労働制適用)

社会保険等:国家公務員共済組合、雇用保険、労働者災害補償保険に加入

その他、給与・手当は、本学の規定により決定します。

募集期間:2016年05月06日 必着

応募・選考・結果通知・連絡先:

- (1) 教員個人調(別添様式):写真貼付、履歴(学歴、職歴、資格等)、研究業績等(学術論文、国際会議、

その他などに分類、全ての著者氏名、題目、掲載雑誌名、巻、発行年、ページを記載のこと。また、学術論文には、掲載雑誌の最新のインパクトファクター及び被引用件数を記載のこと)。

- (2) 主要な論文5編程度の別刷(コピーでも可)
- (3) 現在までの教育研究概要(任意形式 A4用紙1枚程度)
- (4) 応募の動機と教育と研究に対する抱負(任意形式 A4用紙1枚程度)
- (5) その他、受賞及び外部資金獲得状況、特記事項など(資料・コピーがあれば添付して下さい)
- (6) 参考意見を伺える方2名の氏名及び連絡先(e-mailを含む)

以上の(1)から(6)までの書類を印刷物一部、及び(2)を除く書類を一つの電子ファイルにまとめて保存したCDR等の記録媒体を一部添えてください。

上記の書類を、封筒表面に「教員応募書類(海域火山のリスク科学分野)」と朱書の上、以下の提出先に書留郵便で送付下さい。

(提出先)

〒658-0022 兵庫県神戸市東灘区深江南町 5-1-1
神戸大学大学院海事科学研究科長 内田 誠 宛

なお、応募書類は原則として返却いたしません。

[選考内容(選考方法、採否の決定)、結果通知方法]

選考方法 書類選考合格者にはセミナーをしていただき、その後に面接を行います。

なお、セミナーと面接に関わる旅費は支弁しません。

[連絡先(担当者所属、役職、氏名、e-mail、電話番号)]

※重要

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町 5-1-1
神戸大学大学院海事科学研究科 教授 山内知也

E-mail: yamauchi[at]maritime.kobe-u.ac.jp

TEL: (078) 431-6307

備考:

・「男女共同参画社会基本法」趣旨に則り、女性の積極的な応募を歓迎します。

・海事科学研究科 Web サイト:

<http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/>

・神戸大学テニュアトラックプログラムサイト:

<http://www.research.kobe-u.ac.jp/gksh-tt/index.html>

Web 応募不可

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月10日送信しました)

【九州大学大学院理学研究院】

1. 職種・人員 准教授(女性)1名

2. 所属 理学研究院の4つの部門(物理学部門, 化学部門, 地球惑星科学部門, 生物科学部門)の中で希望する部門. 所属希望部門を提出書類(8)に明記すること.
 3. 専門分野 基礎科学(物理学, 化学, 地球惑星科学, 生物科学)
 4. 担当業務等
 - 1) 学部担当: 九州大学では平成30年4月に新学部が開校される予定です. つきましては, 新学部の専任教員として, 理学をベースに新学部の専門分野の授業(a)や卒業研究の指導が英語で行える方を募集します. 希望により兼任教員として理学部の卒業研究の指導を行うことは可能です. 採用後は新学部設置審議にむけて個人調書等の作成や新学部関係の業務があります. 授業可能な新学部の専門分野(a)を提出書類(8)に明記して下さい.
 - (a) 理学(物理学, 化学, 地球惑星科学, 生物科学)をベースにした, 人間・生命(細胞, ゲノム, 生命情報, 進化, 生物多様性, ヘルスサイエンス等), 人と社会(人工知能), 地球・環境(自然共生システム, 自然環境, 生態系, 大気・海洋, 環境社会システム, エネルギー・資源関係等), データサイエンス(地理情報, モデリング, 予測, エンタメゲーム情報等)の専門分野
 - 2) 大学院担当: 所属部門が担当する(理学府又はシステム生命科学府)専攻科目の授業および大学院生の指導.
 - 3) 理学研究院の教育研究の国際化推進に協力できる方.
 - 4) 研究に関しては所属する部門で行います. 専門研究分野は上記1)の学部担当授業科目分野と同じである必要はありません.
 5. 応募資格
 - 1) 博士の学位を有する女性研究者.
 - 2) 新学部の専任教員として, 英語での授業や卒業研究指導等が可能な方(国籍は問わない).
 - 3) 基礎科学に関して顕著な研究・教育業績を有し, 高い研究・教育意欲を持っている方.
 - 4) 採用後, 重複して他の研究機関・企業等に所属しないこと.
 6. 採用予定日: 平成28年11月末日までのできるだけ早い時期.
 7. 任期: 任期制の対象ではありません.
 8. 提出書類
 - (1) 履歴書(写真貼付)
 - (2) 業績リスト(発表論文, 講演, 外部資金等)
 - (3) これまでの研究概要(A4用紙2枚以内)
 - (4) 研究に対する抱負(A4用紙2枚以内)
 - (5) 教育に対する抱負(A4用紙1枚程度)
 - (6) 主要論文別刷り3編以内(コピー可)
 - (7) 応募者を熟知し, 意見を聞ける方2名の氏名とその連絡先, 並びに応募者との関係
 - (8) 所属希望部門と授業可能な新学部の専門分野
 以上の書類とともに, この順序に1つのPDFファイルにまとめて, 適当な媒体(CD, DVD, USBメモリー等)に記録したものを同封して下さい.
 9. 応募締切

平成28年7月22日(金)(必着)
 10. 本公募に関する問い合わせ先

九州大学大学院理学研究院長
中田正夫
電話番号 092-802-4000
e-mail: scikobo@sci.kyushu-u.ac.jp
 11. 書類送付先

〒819-0395 福岡市西区元岡 744
九州大学大学院理学研究院 研究院長 中田正夫宛
(封筒に「教員応募書類」と朱書の上, 必ず郵便書留にて送付のこと)
 12. その他
 - (1) 詳細は理学研究院のHP:
<http://www.sci.kyushu-u.ac.jp/html/koubo/koubo.html> をご覧下さい.
 - (2) 提出書類のうち, (6)以外は全てA4用紙を使用すること.
 - (3) 応募書類は返却しません.
 - (4) 理学研究院における選考過程では, 面接審査を行う場合があります.
その際の交通費は原則自己負担とします.
 - (5) 九州大学では, 男女共同参画社会基本法(平成11年法律第78号)の精神に則り, 教員の選考を行っています.
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月12日送信しました)
- 【国立研究開発法人海洋研究開発機構】
1. 国立研究開発法人海洋研究開発機構 高知コア研究所断層物性研究グループでは, 研究員もしくは技術研究員1名の公募を行っております.
詳細につきましては以下URLをご参照下さい.
<http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/kochi20160608.html>
http://www.jamstec.go.jp/e/about/recruit/kochi_20160608.html

<締切>

平成 28 年 6 月 8 日 (水) 必着

<お問い合わせ先>

国立研究開発法人海洋研究開発機構

人事部 人事第 2 課

jinji2@jamstec.go.jp

2. 国立研究開発法人海洋研究開発機構地震津波海域観測研究開発センター

地震津波予測研究グループでは、特任技術支援職 1 名の公募を行っております。

詳細につきましては以下 URL をご参照下さい。

<http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/ceat20160624.html>

http://www.jamstec.go.jp/e/about/recruit/ceat_20160624.html

<締切>

平成 28 年 6 月 24 日 (金) 必着

<お問い合わせ先>

国立研究開発法人海洋研究開発機構

人事部 人事第 2 課

jinji2@jamstec.go.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 17 日送信しました)

【北海道大学 大学院理学研究院 地球惑星科学部門】

1. 職種・人員・専攻分野

地球惑星科学部門 地球惑星システム科学分野 助教 1 名

専攻分野: 地球惑星物質学 (鉱物学・結晶学に基づいた実験的研究を専門とする方)

備考: 任期 5 年, ただし審査に合格した者は 1 回 (5 年) を限度として再任可。

なお, 再任後の任期終了時に行われる業績審査に合格すれば, その後は任期の定めのない助教となることができます。

就業条件については本学の定める就業規則に基づきます。(http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/reiki/reiki_honbun/u010RG0000447.html)

2. 応募資格: 博士号を取得していること。

本分野の教員と協力して教育研究をしていただける方。

全学教育 (初年次教育) および地球惑星システム科学関連の学部・大学院教育を担当出来る方。

3. 着任予定時期: 採用決定後, できるだけ早い時期

4. 応募書類

イ) 履歴書 (内外の学会活動, 受賞歴, 参加している

プロジェクト研究歴, 各種研究費受領歴なども記載すること。また, 平成 25 年 4 月 1 日以降, 北海道大学に在職経験 (非常勤講師, TA, RA, 短期支援員等すべての職種を含む。) のある者は, 当該職歴を漏れなく記載すること。

ロ) これまでの研究経過 (2,000 字程度)

ハ) 研究業績目録 (和文のものは和文で表記すること)

A. 査読のある原著論文

B. 査読のない論文, 総説など

C. 著書

D. 解説, 報告などその他の出版物で特に参考になるもの

ニ) 主な原著論文の別刷 5 篇以内 (複写可)

ホ) 今後の教育・研究の計画・抱負 (2,000 字程度)

ヘ) 応募者について照会が可能な方 2 名の氏名と連絡先 (電話番号, 電子メールアドレス)

5. 応募締め切り: 2016 年 8 月 1 日 (月) 必着

封筒の表に「教員公募関係」と朱書きし, 簡易書留または宅配便にて送付すること。

教員公募関係書類は個人情報保護法に基づいて厳正に管理し, 審査終了後には適切に処分します。

6. 備考: 選考の過程で面接等を行うことがあります。

※面接に係る旅費・滞在費は応募者負担となりますのでご了承ください。

北海道大学では男女共同参画社会の実現を目指して, 様々な取り組みを行っています。教員の公募に関しても, その精神に則り教員の選考を行います。詳しくは以下をご覧ください。

(http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/soumubu/jinjika/kyoudo_sankaku/)

7. 書類の送付先及び問い合わせ先

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目

北海道大学大学院理学研究院

地球惑星システム科学分野

坂本尚義

電話: 011-706-9173 (dial in) FAX: 011-746-0394

電子メール: [yuri"AT"ep.sci.hokudai.ac.jp](mailto:yuri) (送信時には“AT”を@に置き換えてください)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 17 日送信しました)

○その他の公募

【地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「進歩賞」候補者の募集】

1. 三宅賞

対象: 地球化学に顕著な業績を挙げた研究者

表彰内容: 賞状, 副賞として賞牌および賞金 30 万円, 毎年 1 名

2. 進歩賞

対 象: 1976 年 4 月 2 日以降に生まれた方で, 地球化学の進歩に優れた業績を挙げ, 将来の発展が期待される研究者

表彰内容: 賞状および賞金 10 万円, 毎年 1~2 名

3. 応募方法: 地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に, 略歴・推薦理由・研究業績などを記入し, 主な論文 三宅賞: 10 編程度, 進歩賞: 2 編程度 1 を添えて, 下記のあて先へ送付して下さい。応募書類等は三宅賞及び進歩賞選考のためにのみ用いられます。

4. 締切日: 2016 年 8 月 31 日 (必着)

地球化学研究協会ホームページ:

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~e881147/Geochem/index.html>

なお, ホームページのアドレスは 4 月以降下記に替ります。

<http://www.geochem-ass-miyake.com>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 3 月 15 日送信しました)

【東京大学地震研究所】

1. 公募事項: (1) 高エネルギー素粒子地球物理学公募研究
2. 申請資格: 国立大学, 公, 私立大学及び国, 公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じる者。
3. 申請方法: 共同利用 HP にある「所定の様式」に必要な事項を記載のうえ研究代表者が申請してください。

【共同利用ページ URL】

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/index.html>

【申請先】

<https://www.pasreg.jp/reg/top/erikyodo/author>

4. 申請期限: 平成 28 年 5 月 25 日 (水)

※詳細は共同利用 HP をご覧ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 14 日送信しました)

【海上保安庁】

海上保安庁では, 海底調査で明らかになった海底地形に名称を付与し海図や海底地形図などに記載するとともに, 学術分野等での利用の便宜を図っており, 下記のとおり, 新たな海底地形名称の提案を受け付けています。

ご提案いただきました海底地形名称は, 年に一度開催される「海底地形の名称に関する検討会」で検討し, 決

定します。

1. 提案の方法

地名提案のためには, 当該海域の調査データを用いて作成した海底地形図等を含む提案書を作成していただく必要があります。詳細については, 以下の問い合わせ先まで, 直接にご連絡をお願いします。提案書の様式等を送付致します。

2. 提案の期限

ご提案は, 随時, 受け付けております。ただし, 提案書提出が, 本年度の検討会に間に合わない場合は, 来年度の検討となりますのでご了解ください。

なお, 本年度の検討会は, 5 月下旬~6 月中旬に開催を予定しています。

3. 「海底地形の名称に関する検討会」について

本検討会は, 海底地形の名称を決定する国内唯一の会合です。委員は, 学識経験者(地理学, 海洋底地球科学の各専門家)及び関係機関(産業技術総合研究所, 水産庁, 海洋研究開発機構)の代表者から構成されます。

4. 決定した海底地形名称の公表

これまでに決定した海底地形の名称は海上保安庁海洋情報部のホームページで紹介しており, 今年度の検討結果も同様に公表することとしております。

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KOKAI/ZUSHI3/topographic/topographic.htm>

5. 問い合わせ先

本件の問い合わせは, 以下をお願いします。

海上保安庁海洋情報部航海情報課

海図地名情報官 牛島雅浩

電話 03-5500-7159 FAX 03-5500-7161

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 20 日送信しました)

【鳥取県山陰海岸ジオパーク調査研究支援事業】

募集内容: 平成 28 年度 鳥取県山陰海岸ジオパーク調査研究支援事業

締切: 平成 28 年 6 月 10 日 (金) 必着

詳細 URL: <http://www.pref.tottori.lg.jp/item/1027800.htm#itemid1027800>

詳細:

1. 補助対象者等

大学・高等専門学校等の高等教育機関及び研究機関の団体又は個人で, 研究成果を山陰海岸ジオパーク推進協議会や県などが主催するイベント等で発表ができる方。

2. 補助対象事業

鳥取県の山陰海岸ジオパークエリア※を含む地域の調査研究で、次のいずれかに該当するもの。

- (1) 地形・地質に関するもの
- (2) 地形地質以外の自然、環境に関するもの(ただし、地形・地質等との関わりを必ず議論すること)
- (3) 歴史、民俗、文化に関するもの(ただし、地形・地質等の自然環境との関わりを必ず議論すること)
- (4) ジオツーリズム、地域づくり、地域経済の活性化に資するもの

※鳥取市(一部を除く)及び岩美町全域(山陰海岸ジオパークのエリアについては、山陰海岸ジオパークのホームページを参照ください)

3. 事業期間

補助金の交付決定の日から平成29年3月31日まで

4. 助成対象となる経費等

(1) 助成対象経費

助成の対象となる経費は、別表に掲げる経費とします。

(当該事業の実施に当たり、他に収入がある場合は、その収入額を除いた額とします。)

(2) 助成額

1件あたり上限50万円

5. 応募の方法

次の書類を直接担当館まで持参するか、又はメール、ファックス、郵送等で提出してください。

- (1) 鳥取県山陰海岸ジオパーク調査研究支援補助金事業計画書(様式第1号)1部
- (2) 鳥取県山陰海岸ジオパーク調査研究支援補助金収支予算書(様式第2号)1部

[申込先、問い合わせ先]

〒681-0001 鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794-4
鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館
(担当: 太田)

TEL: 0857-73-1445 FAX: 0857-73-1446

E-mail: ootayu@pref.tottori.jp

6. 応募締切

平成28年6月10日(金)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月17日送信しました)

○シンポジウム等の開催

【海洋研究開発機構 平成27年度地球シミュレータ利用報告会の開催—地球シミュレータによる社会貢献とイノベーションの創造に向けて—】

主催: 国立研究開発法人海洋研究開発機構
地球情報基盤センター

開催日: 平成28年3月11日(金) 10:00-17:30 (9:30開場)

会場: コクヨホール [東京・品川]

※参加費無料・事前登録制

※プログラムほか詳細情報・参加申込は以下のウェブをご覧ください。

<http://www.jamstec.go.jp/es/jp/event/h27houkoku/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月2日送信しました)

【高レベル放射性廃棄物の最終処分に関するイベントのご案内】

高レベル放射性廃棄物の最終処分に関して、3月に以下のイベントを予定しております。

関連HPから参加登録が可能です。

●地層処分フォーラム(3月20日(日)開催)

地域対話や地域支援のあり方をテーマとした参加者との意見交換、それを踏まえた専門家のパネルディスカッション

< 関連HP >

http://www.chisou-sympo.jp/forum_taiwa/

●国際シンポジウム「いま改めて考えよう地層処分～世界の取り組みから学ぶ～」(3月28日(月)開催)

・高レベル放射性廃棄物の最終処分に向けた国際的な議論の経緯や各国の取組状況を紹介

・スウェーデンの立地市町村及び実施主体(SKB)の担当者から経験等を紹介

< 関連HP >

http://www.numo.or.jp/pr-info/pr/event/new_symposium16022909.html

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月7日送信しました)

【産総研活断層・火山研究部門研究集会「カルデラ研究の今後の展望」】

日時: 2016年4月26日(火) 13:30-17:00

場所: 秋葉原UDX 4F Next-2(東京都千代田区)

参加費: 無料

講演者:

藤井敏嗣(噴火予知連会長): カルデラ研究のすすめ

下司信夫(産総研): 大規模噴火の比較: その共通点とバリエーション

中川光弘(北海道大学): 大規模カルデラ噴火の準備

過程と噴火過程

井口正人 (京都大学防災研): 地盤変動観測からみる始
良カルデラ下のマグマの動き

巽 好幸 (神戸大学): 巨大カルデラ噴火は予測できる
か?

事前の参加申し込みは不要です。直接、会場にお越
し下さい

問い合わせ先: 産総研 山元孝広

t-yamamoto@aist.go.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月14
日送信しました)

【第9回日本一カムチャツカーアラスカ沈み込み帯ワー
クショップ】

日時: 2016/5/31~6/3

場所: アラスカ大学フェアバンクス校

詳細: <http://gps.alaska.edu/JKASP/>

問い合わせ先: 北海道大学 高橋浩晃 (hiroaki@mail.sci.
hokudai.ac.jp)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月8
日送信しました)

【高レベル放射性廃棄物の最終処分に関するシンポジウ
ムのご案内】

高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する全国シンポ
ジウムを5月大型連休明け以降、全国で順次開催します。

詳細は以下 URL よりご覧ください。

[http://www.meti.go.jp/press/2016/04/20160412001/2016
0412001.html](http://www.meti.go.jp/press/2016/04/20160412001/2016
0412001.html)

担当: 資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月14
日送信しました)

【火山防災 WS のお知らせ】

火山防災コンピューティングワークショップのお知らせ
火山防災の分野ではコンピューターシミュレーション
の活用が急速に進んでいます。

このワークショップでは、手軽に利用できる、降灰シ
ミュレーションソフト Tephra2 と火砕流シミュレーシ
ョンソフト TITAN2D の理論を概観し、具体的な計算法を
習得します。

また得られた結果を、フリーの GIS ソフト QGIS を用
いて図化し、政府が無料で提供している地理情報を使っ
て、被害想定を行います。

参加を希望される方は、下記連絡先まで件名を【火山
シミュ参加希望 (氏名)】として氏名、連絡先、私用する

コンピュータの OS を明記の上、メールで御連絡下さい。

日時: 2016年5月21日 (土曜日) 11:00~17:00

場所: 幕張メッセ 203 会議室

募集人数: 20 名

参加費: 会場代・資料代 1500 円

講師 (予定): 佐々木寿 (アジア航測), 宝田晋治 (産総
研), 常松佳恵 (富士山研)
萬年一剛 (湿地研)

日程:

0. LAN 設定&インストール (11:00-12:00)

1. DEM の作り方 (13:00-13:50)

2. Tephra2 解説と利用 (14:00-14:50)

3. TITAN2D の解説と利用 (15:00-15:50)

4. QGIS を用いた計算結果の可視化と被害想定
(16:00-17:00)

連絡先:

宝田晋治 (s-takarada@aist.go.jp)

注意:

・事前に QGIS のインストールをお願いします。イン
ストール法などは別途参加者に連絡します。

・午後のみ参加も可とします。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月21
日送信しました)

【防災学術連携体】熊本地震・緊急報告会

日 時: 平成 28 年 5 月 2 日 (月) 12:30~17:30

会 場: 日本学術会議講堂 (東京都港区六本木 7 丁目 22
番地 34 号)

主 催: 日本学術会議, 防災減災・災害復興に関する学
術連携委員会

共 催: 防災学術連携体

参加申込: 専用フォーム ([https://ws.formzu.net/fgen/S124
64423/](https://ws.formzu.net/fgen/S124
64423/)) よりお申し込みください。

定 員: 300 名 (定員になり次第締め切らせて頂きます
ので、ご了承下さい)

参加費: 無料

発表資料: 報告会の前日の夕方にホームページに掲載し
ます。

*各自印刷してご持参下さい。会場では資料を配
布しません。

日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携
委員会は、防災学術連携体 (平成 28 年 1 月 9 日に発足し
た防災減災・災害復興に関する 50 学会のネットワーク)
と連携して、2016 年 4 月 14 日に発生した熊本地震への
対応を進めています。このたび、日本学術会議と防災学

術連携体に所属する学会から、異なる分野の専門家が集まり、この地震に関する正確な情報を発信すると共に、関係者間で情報共有をはかり学際連携を進めるために、緊急報告会を開催します。

プログラム

挨拶

日本学術会議会長 大西 隆

日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携
委員長 和田 章

行政関係者

学会発表（発表 10分 + グループ質疑 12分）（予定）

* 防災学術連携体の 50 学会から発表学会を調整中
です。

1) 熊本地震について

加藤照之 東京大学地震研究所（日本地震学会会
長）

2) 地震に関する情報について

東畑郁生（日本地盤工学会会長）、安福規之（九州
大学教授）、山口弘志（中央開発株式会社）、清田隆
（東京大学准教授）

3) 被災状況と対策について

高山峯夫（日本建築学会九州支部災害委員会委員
長／福岡大学教授）

4) 土砂災害・風水害と対策について

5) 避難・救助・救援について

6) 復旧・復興について

閉会挨拶

防災学術連携体 代表幹事 廣瀬典昭（土木学会会長）

■ 問い合わせ

事務局長

米田雅子（慶應義塾大学特任教授・日本学術会議連
携会員）／ yoneda@psats.or.jp, 03-5876-8461

事務局（担当学会 土木学会）

防災学術連携体担当: 菅原健介／
sugawara@jsce.or.jp, 03-3355-3443

事務局支援チーム

小野口弘美／ info@janet-dr.com

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 27
日送信しました）

【ジオパーク新潟国際フォーラム】

アジアを中心としたジオパークネットワークの展望を
議論します。

主催: ジオパーク新潟国際フォーラム実行委員会、

共催: 新潟大学

後援: 日本火山学会, ユネスコバンコク事務所, アジア
太平洋ジオパークネットワークほか

7 月 27 日（水）～29 日（金）

27 日 東アジアネットワーク ワークショップ

28 日 基調講演会, パネルディスカッションほか

29 日 見学会（佐渡コース, 苗場山麓コース, 糸魚川
コース）

会場: 朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）

申込締切: 5 月 31 日（火）

<http://www.city.itoigawa.lg.jp/geopark-forum/index.html>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 28
日送信しました）

【第 6 回国際陥没カルデラ研究集会 学生若手参加費補
助の募集】

9 月 4 日～10 日に、北海道洞爺・支笏カルデラ地域（伊
達市北湯沢温泉 第二名水亭）にて第 6 回国際陥没カル
デラ研究集会が開催されます。

この度、補助金・寄付金等をいただけたことを受けま
して、国内の学生及び若手研究者の研究発表を促進する
ため参加費の一部を補助することになりました。

参加費軽減の対象は、筆頭かつ発表者として研究集会
にて研究発表をおこなう方で

a) 国内外の大学・研究機関等に所属し、非常勤職（ポ
スドク等）にある人、あるいは b) 国内の大学に在籍す
る大学院生です。

a) と b) はそれぞれ別個に審査・採択します。それぞ
れ数件程度を予定し、最大で参加登録費の半額を補助す
る予定です。

希望者多数の場合、研究発表の内容および若年者を優
先して採択します。

補助を希望される方は、完成させたアブストラクトを
添付の上、以下の内容を電子メールにて

LOC (iwcc6@gaia.h.kyoto-u.ac.jp) までお送りください。
締め切りは 5 月 15 日（日）午後 9 時（日本時間）とし
ます。

氏名:

年齢:

所属:

学年（大学院生の場合）:

連絡先

e-mail:

注 1: アブストラクトのフォーマットなどは、研究集会
のウェブサイトからダウンロードしてください。

<https://staff.aist.go.jp/geshi-nob/CCC/>

注 2: 本補助に応募される方は、採否をご連絡するまでウェブサイトでの registration をお待ちください (ウェブサイトでは参加費の軽減ができないため)。採否のご連絡と同時に registration についてもご連絡します。

第 6 回国際陥没カルデラ研究集会 LOC 中川光弘・下司信夫
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 10 日送信しました)

【火山防災シンポジウム開催のお知らせ】

日本火山学会会員各位

火山防災委員会では地球惑星科学連合 2016 年大会期間中の 5 月 23 日に以下のように火山防災シンポジウム開催いたします。

ご興味のある方は是非ご参加ください。

日本火山学会 火山防災シンポジウム

日時 5 月 23 日 (月) 18: 30~20: 00

場所 幕張メッセ 101 A

1. 避難確保計画の手引きについて (内閣府)
2. シェルターの手引きについて (内閣府)
3. 防災学術連携体の活動について (吉本充宏, 山梨県富士山科学研究所)
4. そのほか, 総合討論

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 16 日送信しました)

○ EPS 関係

【Contents Service: Earth, Planets and Space, Vol. 67 December 2015 & Vol. 68 January 2016】

=====

Earth, Planets and Space (EPS)

Contents: Vol. 67, 68

Published: December 2015 & January 2016 Manuscript No. 192-208, 1-14

<http://earth-planets-space.springeropen.com/>

=====

Frontier letter

On volume-source representations based on the representation theorem Mie Ichihara, Tetsuya Kusakabe, Nobuki Kame and Hiroyuki Kumagai Earth, Planets and Space 2016 68: 14 Published on: 29 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-016-0387-3>

Technical report

Design and challenges for a tsunami early warning system

in the Marmara Sea Öcal Necmioğlu Earth, Planets and Space 2016 68: 13 Published on: 28 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-016-0388-2>

Full paper

Slip deficit in central Nepal: omen for a repeat of the 1344 AD earthquake?

L. Bollinger, P. Tapponnier, S.N. Sapkota and Y. Klinger Earth, Planets and Space 2016 68: 12 Published on: 28 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-016-0389-1>

Letter

Strong ground motion in the Kathmandu Valley during the 2015 Gorkha, Nepal, earthquake Nobuo Takai, Michiko Shigefuji, Sudhir Rajaure, Subeg Bijukchhen, Masayoshi Ichiyangi, Megh Raj Dhital and Tsutomu Sasatani

Earth, Planets and Space 2016 68: 10

Published on: 26 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-016-0383-7>

Full paper

40Ar/39Ar and cosmic ray exposure ages of plagioclase-rich lithic fragments from Apollo 17 regolith, 78461 J.P. Das, S.L. Baldwin and J.W. Delano Earth, Planets and Space 2016 68: 11 Published on: 26 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-016-0381-9>

Full paper

Preparatory process preceding the 2014 eruption of Mount Ontake volcano, Japan: insights from precise leveling measurements Masayuki Murase, Fumiaki Kimata, Yoshiko Yamanaka, Shinichiro Horikawa, Kenjiro Matsuhiro, Takeshi Matsushima, Hitoshi Mori, Takahiro Ohkura, Shin Yoshikawa, Rikio Miyajima, Hiroyuki Inoue, Taketoshi Mishima, Tadaomi Sonoda, Kazunari Uchida, Keigo Yamamoto and Harushisa Nakamichi Earth, Planets and Space 2016 68: 9 Published on: 22 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-016-0386-4>

Letter

Statistical characteristics of medium-scale traveling ionospheric disturbances revealed from the Hokkaido East and Ekaterinburg HF radar data Alexey V. Oinats, Nozomu Nishitani, Pavlo Ponomarenko, Oleg I.

Berngardt and Konstantin G. Ratovsky

Earth, Planets and Space 2016 68: 8

Published on: 21 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-016-0390-8>

Letter

Amino acid compositions in heated carbonaceous chondrites and their compound-specific nitrogen isotopic ratios Queenie Hoi Shan Chan, Yoshito Chikaraishi, Yoshinori Takano, Nanako O. Ogawa and Naohiko Ohkouchi Earth, Planets and Space 2016 68: 7 Published on: 21 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-016-0382-8>

Full paper

A possible scenario for earlier occurrence of the next Nankai earthquake due to triggering by an earthquake at Hyuga-nada, off southwest Japan Mamoru Hyodo, Takane Hori and Yoshiyuki Kaneda Earth, Planets and Space 2016 68: 6 Published on: 19 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-016-0384-6>

Letter

Ambient noise tomography in the Naruko/Onikobe volcanic area, NE

Japan: implications for geofluids and seismic activity Jun Tamura and Tomomi Okada Earth, Planets and Space 2016 68: 5 Published on: 16 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-016-0380-x>

Letter

Visualization of Green's function anomalies for megathrust source in Nankai Trough by reciprocity method Anatoly Petukhin, Ken Miyakoshi, Masato Tsurugi, Hiroshi Kawase and Katsuhiko Kamae Earth, Planets and Space 2016 68: 4 Published on: 15 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-016-0385-5>

Full paper

Characteristics of the atmospheric electric field and correlation with CO₂ at a rural site in southern Balkans Nikolaos Kastelis and Konstantinos Kourtidis Earth, Planets and Space 2016 68: 3 Published on: 15 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-016-0379-3>

Full paper

The AUTUMNX magnetometer meridian chain in Québec, Canada Martin Connors, Ian Schofield, Kyle Reiter, Peter J. Chi, Kathryn M.

Rowe and Christopher T. Russell

Earth, Planets and Space 2016 68: 2

Published on: 7 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0354-4>

Full paper

Inferring the high velocity of landslides in Valles Marineris on Mars from morphological analysis Paolo Mazzanti, Fabio Vittorio De Blasio, Camilla Di Bastiano and Francesca Bozzano Earth, Planets and Space 2016 68: 1 Published on: 6 January 2016

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0369-x>

Letter

Earth's rotation variability triggers explosive eruptions in subduction zones Gianluca Sottili, Danilo M. Palladino, Marco Cuffaro and Carlo Doglioni Earth, Planets and Space 2015 67: 208 Published on: 30 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0375-z>

Full paper

Tectonic effect for establishing a semi-dynamic datum in Southwest Taiwan Kuo-En Ching and Kwo-Hwa Chen Earth, Planets and Space 2015 67: 207 Published on: 30 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0374-0>

Letter

Empirical model of equatorial electrojet based on ground-based magnetometer data during solar minimum in fall Nurul Shazana Abdul Hamid, Huixin Liu, Teiji Uozumi and Akimasa Yoshikawa Earth, Planets and Space 2015 67: 205 Published on: 29 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0373-1>

Full paper

Descent of tremor source locations before the 2014 phreatic eruption of Ontake volcano, Japan Masashi Ogiso, Hirotohi Matsubayashi and Tetsuya Yamamoto Earth, Planets and Space 2015 67: 206 Published on: 29 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0376-y>

Letter

Laboratory evidence of strength recovery of a healed fault : implications for a mechanism responsible for creating wide fault zones Koji Masuda *Earth, Planets and Space* 2015 67 : 204 Published on : 24 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0377-x>

Erratum

Erratum to: Dependence of mesospheric Na and Fe distributions on electron density at Arecibo Shikha Raizada, Craig A. Tepley, Qihou Zhou, Sumanta Sarkhel, John D. Mathews, Nestor A. Aponte, Ilgin Seker, Robert Kerr and Edvier Cabassa *Earth, Planets and Space* 2015 67 : 202 Published on : 22 December 2015 The original article was published on : 11 September 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0371-3>

Frontier letter

Energetic ion acceleration during magnetic reconnection in the Earth's magnetotail Shinsuke Imada, Mariko Hirai and Masahiro Hoshino *Earth, Planets and Space* 2015 67 : 203 Published on : 22 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0372-2>

Frontier letter

Detailed crustal deformation and fault rupture of the 2015 Gorkha earthquake, Nepal, revealed from ScanSAR-based interferograms of ALOS-2

Tomokazu Kobayashi, Yu Morishita and Hiroshi Yurai *Earth, Planets and Space* 2015 67 : 201 Published on : 14 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0359-z>

Letter

Mineralogy and petrology of lunar meteorite Northwest Africa 2977 consisting of olivine cumulate gabbro including inverted pigeonite Hiroshi Nagaoka, Yuzuru Karouji, Hiroshi Takeda, Timothy J. Fagan, Mitsuru Ebihara and Nobuyuki Hasebe *Earth, Planets and Space* 2015 67 : 200 Published on : 12 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0368-y>

Full paper

Application of scattering theory to P-wave amplitude fluctuations in the crust Kazuo Yoshimoto, Shunsuke Takemura and Manabu Kobayashi *Earth, Planets and Space* 2015 67 :

199 Published on : 10 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0366-0>

Full paper

Examination of an active submarine fault off the southeast Izu Peninsula, central Japan, using field evidence for coseismic uplift and a characteristic earthquake model Akihisa Kitamura, Yuta Mitsui, Shigeto Kawate and Haeng Yoong Kim *Earth, Planets and Space* 2015 67 : 197 Published on : 9 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0367-z>

Letter

Characterising the CI and CI-like carbonaceous chondrites using thermogravimetric analysis and infrared spectroscopy Ashley J. King, Jake R. Solomon, Paul F. Schofield and Sara S. Russell *Earth, Planets and Space* 2015 67 : 198 Published on : 9 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0370-4>

Full paper

Statistical analysis of ionospheric mid-latitude trough over the Northern Hemisphere derived from GPS total electron content data Na Yang, Huijun Le and Libo Liu *Earth, Planets and Space* 2015 67 : 196 Published on : 8 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0365-1>

Full paper

The February 24, 2010 substorm : a refined view involving a pseudobreakup/expansive phase/poleward boundary intensification sequence Martin Connors, Christopher T. Russell, Xiangning Chu and Robert L. McPherron *Earth, Planets and Space* 2015 67 : 195 Published on : 3 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0363-3>

Full paper

Recovery and validation of Mars ionospheric electron density profiles from Mariner 9 Paul Withers, Sarah Weiner and Nicholas Roy Ferreri *Earth, Planets and Space* 2015 67 : 194 Published on : 3 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0364-2>

Letter

Numerical studies of geomagnetically induced electric field on seafloor and near coastal zones incorporated with

heterogeneous conductivity distributions Tada-nori Goto
Earth, Planets and Space 2015 67: 193 Published on: 2
December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0356-2>

Full paper

Evaluation of strain accumulation in global subduction
zones from seismicity data Ryoya Ikuta, Yuta Mitsui, Yuri
Kurokawa and Masataka Ando Earth, Planets and Space
2015 67: 192 Published on: 2 December 2015

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/10.1186/s40623-015-0361-5>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月13日送信しました)

【EPS 誌に関するお知らせ】

日本火山学会のみなさま

EPS 誌には、現在、御嶽山に関する特集等が掲載されております。(2015年)

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/collections>

また、regular/special issue を問わず、article/section でフィルターを掛けて火山関係の論文を抽出することができます。

<http://earth-planets-space.springeropen.com/articles/sections/5-volcanology>

是非、ご活用ください。

西村@他学会担当

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに5月10日送信しました)

○特定非営利活動法人日本火山学会・理事選挙

【特定非営利活動法人日本火山学会理事選挙について】

2016年2月19日

会員各位

特定非営利活動法人日本火山学会
選挙管理委員会委員長
高橋正樹

特定非営利活動法人日本火山学会理事選挙について
(通知)

日本火山学会理事選挙規程に基づき、次期理事の立候補を受け付けましたが、下記に示す15名より立候補の届け出がありました。立候補受付のお知らせで通知しましたように、次期理事定員は15名以内としていましたので、会員による投票は行わず、下記の立候補者15名を次期理事候補とし、5月の連合大会の際に開催される次期総会においてお諮りし、選任していただくこととしま

す。

次期理事候補者(あいうえお順)

氏名	所属
井口正人	京都大学防災研究所
市原美恵	東京大学地震研究所
上田英樹	国立研究開発法人防災科学技術研究所
大倉敬宏	京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター
大野希一	島原半島ジオパーク協議会事務局
下司信夫	国立研究開発法人産業技術総合研究所
篠原宏志	国立研究開発法人産業技術総合研究所
嶋野岳人	常葉大学大学院環境防災研究科
東宮昭彦	国立研究開発法人産業技術総合研究所
西村太志	東北大学大学院理学研究科
橋本武志	北海道大学大学院理学研究院
萬年一剛	神奈川県温泉地学研究所
三浦大助	一般財団法人電力中央研究所
山里 平	気象庁気象研究所火山研究部
吉本充宏	山梨県富士山科学研究所

以上

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月2日送信しました)

○編集委員会からのお知らせ

火山学会会員のみなさま、

平成28年4月20日

「火山」編集委員長 橋本武志

編集委員会から学会誌「火山」に関してご報告とお願いがございます。

(1) 学会誌のオンライン公開について

これまで「火山」の掲載記事は、維持会員のみ学会ホームページ上で全文を無料閲覧可能でしたが、既に総会でお知らせしておりますように、第60巻3号よりアクセス制限を撤廃し、どなたでもオンラインで無料閲覧していただけるようになりました。

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/BackNo/index.html>

これにより、学会外への情報発信も容易になっておりますので、オリジナルの論説・寄書はもとより、「解説・紹介」や「総説」「書評」「口絵解説」のカテゴリも積極的に活用していただければ幸いです。

(2) CiNii から J-STAGE への移行について

これまで CiNii で公開している「火山」「火山 第2集」「日本火山学会講演予稿集」の記事には、バックナンバーの全文閲覧に対して一定期間の制限(有料での閲覧)をしてきましたが、上記の変更に伴って、この制限も撤廃しております。

http://ci.nii.ac.jp/organ/journal/INT1000001580_ja.html

なお、今年度より CiNii のサービスが廃止されることに伴い、当学会では J-STAGE への移行を進めております。また、これまで CiNii で公開している記事は白黒版でしたが、J-STAGE への移行に合わせて、古い巻号の記事もカラー PDF 化を行いました。

J-STAGE への移行作業には時間がかかりますが、ゆくゆくは過去のすべての巻号のカラー全文が無料でオンライン閲覧できるようになります（現在はまだ CiNii 上で白黒版ですのであしからずご了承下さい）。

(2) 投稿規定類について

編集委員会では、約 2 年前から投稿規定類の改訂に取り組んできました。これは、近年の投稿電子化に伴い、旧規定類と実際の投稿編集作業の間に齟齬が目立つようになったこと、電子出版の一般化に伴い、二重投稿や剽窃行為に関する世間の関心が高まってきたこと等への対応です。

2015 年 11 月に大幅な改訂を行いました。

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/doc/toukou.html>

二重投稿の禁止条項や文献引用に関するガイドラインが追加されているほか、細かな点が改訂されております。また、今後は原則としてオンライン投稿（投稿 WEB サイトまたは電子メール添付）のみ受け付けます。

投稿時は原稿を PDF でご提出いただきますが、受理後の最終原稿については、編集の都合上 Microsoft Word 形式での提出をお願いしておりますのでご協力を願います。

投稿原稿テンプレートも上記投稿規定サイトに用意しておりますので、ぜひご活用下さい。

よりよい学会誌を皆様にお届けできるよう引き続き努力して参りますので、会員の皆様にはご理解・ご協力をお願いいたします。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 4 月 20 日送信しました）

○日本火山学会行動規範（案）に対するご意見の募集

日本火山学会では、学術研究のあり方や社会とのかかりについて、より真摯に取り組むべきと考え、「日本火山学会 行動規範」の策定を検討しております。

このたび、原子力問題対応委員会で作成した原案を 5 月 9 日理事会にて検討・修正した「日本火山学会 行動規範（案）」を会員のみなさまに提示させていただきます。

火山学会ホームページの会員向け情報よりご覧ください。

広く会員の皆様のご意見をいただき、反映したうえで、5 月 24 日に予定している 2016 年度通常総会にて提案・

採決を予定しております。

ご多忙の折恐縮ですが、ぜひ、ご一読いただき、忌憚なきご意見を賜りたく存じます。

本行動規範（案）に対するご意見は、5 月 20 日までに火山学会事務局までお寄せください。

火山学会事務局 e-mail: kazan-gakkai@kazan.or.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 5 月 11 日送信しました）

○「火山」61 巻 1 号 目次

「火山」61 巻 1 号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか、メーリングリスト限定、著者からの一言メッセージをご覧ください。

「火山」61 巻 1 号

特集：日本火山学会 60 周年「火山学の最新動向と今後の展望」

（The 60th Anniversary of VSJ: “Latest Advances in Volcanology and Future Prospective”）

巻頭言：日本火山学会 60 周年特集

「火山学の最新動向と今後の展望」について

1. 総説「マントル対流と全地球ダイナミクス」

著者：岩森 光

マントルは、全地球システムの中で最大のサブシステムであり、物質分化、ダイナミクス、熱進化を支配する。マントルがどのように対流し、地球の構造やダイナミクスと関わるかは、火山の成因や地震発生を含む現在の活動と、長期的な地球進化・将来像とも関わる根源的問題である。本総説では、マントルの大構造とその成因を、対流と物質循環の観点からレビューし、地球深部の熱源ではなく、表面からの冷却が対流の原動力や長波長構造の成因として重要であること（Top-down hemispherical dynamics）を示す。

2. 総説「プレートの沈み込みと島弧マグマ活動」

著者：中島淳一

沈み込み帯の火成活動にはスラブ起源流体が深く関与していると考えられていますが、メルトの分布域やその上昇経路の理解は十分ではありません。本論文では世界の主要な沈み込み帯で得られているマントルウエッジの地震波速度・減衰構造のレビューを通して、スラブ流体の放出深度とマントル上昇流の関係、メルトの分布域などを考察しました。メルトの分布域に関しては沈み込むプレートの年代で類型化できることがわかり、その上昇メカニズムを簡単に議論しています。

3. 総説「火山噴火現象とマグマ上昇過程：観測と物理モ

デルに基づく噴火推移予測に向けて」

著者: 小屋口剛博

本総説では、マグマ溜りの物理過程に関するモデルと火道流ダイナミクスに関するモデルを組み合わせた「マグマ供給・噴出系モデル」に基づいて、噴火の開始・終息条件や噴火期間中のマグマ噴出率の推移を推定する試みについてレビューしました。その中で、マグマ供給・噴出系モデルの、現象の時間発展を記述する「順問題モデル」としての性質と観測からモデルパラメータを決定する「逆問題モデル」としての性質を整理することによって、今後、観測研究や実験・理論研究を有機的に統合し噴火推移予測に関する研究を進めてゆく上で、どのような課題を解決してゆけばよいかを議論しました。

4. 総説「沈み込み帯での水の循環様式」

著者: 片山郁夫

沈み込み帯での水の循環は、含水鉱物の共生関係を基に議論されることが多いが、含水鉱物の脱水分解によって放出される水は岩石中を移動するなど、流体そのものの動的な振る舞いも沈み込み帯での水循環において重要な役割を担う。本小論では、蛇紋岩の浸透率に基づき、(1) 海洋プレートからマントルへ放出される水はプレート境界に沿って移動する、(2) 沈み込み帯で水の循環様式が異なるのは流体の上昇速度と沈み込み速度の兼ね合いによる、ということを提案した。また、日本列島での火山や地震の地域性を、沈み込み帯での水の循環様式と関連づけて議論した。

5. 総説「島弧マグマと地殻形成: マントルから大陸を創る」

著者: 田村芳彦

地面をずっと掘っていくと何があるのだろうか、と子供の時に誰もが考え、ワクワクしたものである。日本はマントルまで掘削できる地球深部探査船「ちきゅう」を保有していながら「マントル」はおろか、「海でできる大陸」さえも掘削できていない。しかし、これこそが他国とは異なる日本の独自性であり、我が国の強み、我が国の科学技術イノベーション力が結集したものにほかならない。我々は「地球の内部へ向かうという挑戦」を受けて立とうではないか。

6. 総説「プレートの沈み込み開始と火山弧創成モデル」

著者: 石塚 治

沈み込み帯はどのようなきっかけで生まれ、形成されるのか、これはプレートテクトニクス理論における第1級の問題であり続けているが、これまで限られた知識しか得られていない。これは、プレート

沈み込み開始という現象が過渡的なプロセスで、現行過程を観察することが困難であることによるところが大きい。近年、沈み込み開始期の火山、マグマプロセスの記録が保存されている海洋性島弧前弧域での調査研究により、多くの新しい知見が得られている。同時にこれまで提唱されてきた概念的な沈み込み開始モデルや数値シミュレーションによるモデルの検証と高度化も進展している。本稿ではこれらの現状と今後の課題について述べる。

7. 総説「大規模火砕噴火と陥没カルデラ: その噴火準備と噴火過程」

著者: 下司信夫

8. 総説「地球物理学的多項目観測から見た噴火過程」

著者: 中道治久・青山裕

ここ10年の技術の進歩により火山近傍における多項目地球物理観測が多くの火山で行われるようになりました。それに伴い火山噴火過程についての理解が格段に進みました。この総説では、地震と地殻変動の観測の成果を中心に、空振や映像などの観測を含めて噴火様式別に噴火過程の解明の進展について解説します。地震と地殻変動がカバーする時間スケールで、噴火前駆現象出現時、噴火時、噴火直後に着目しました。また、地球物理学的観測から噴火規模と強度の推定の現状を述べつつ、今後の研究の方向性についての筆者の考えを示しました。

9. 総説「火山ガス観測研究から見る地下のマグマ挙動および噴火現象の解釈」

著者: 風早竜之介・森俊哉

火山ガス研究について、火山ガスから解る地下マグマの情報、データ解釈・議論の際に仮定が必要となる脱ガスモデル、また、火山ガスと地球物理観測量の関連についてまとめました。本総説が火山ガス研究初学者(特に学生)や地球物理研究に携わる方々の火山ガス研究の理解の一助になる事を切に願います。火山ガス研究について、この総説だけでなく数多くの日本語の総説が出版されております。本総説でもいくつか引用させて頂いておりますので併せて参照していただければと思います。

10. 総説「室内実験による火山現象の解明」

著者: 並木敦子

火山学の重要な目的の1つに噴火予測があります。すべての条件が観測により推定され、その条件を使って計算し、これから起こる現象を予測できるようになったら理想的かもしれませんが、残念ながら、そうはなっていません。そうっていない原因の1つに計算で使う式ができていない事があります。レオロ

ジーを中心に、マグマの挙動を実験に基づき如何にして式で表現するか、日本の実験火山学者の皆様による成果の一端を紹介しています。ご一読いただくと幸いです。

11. 総説「日本の火山防災体制の現状と課題—火山専門家と災害対応者の効果的な連携に向けて—」

著者：石峯康浩

日本火山学会の60周年事業ワーキンググループ2(火山学と社会・教育との関わり)や火山防災委員会での議論に基づき、火山災害の軽減に向けて火山専門家が関連機関とどのような連携体制を構築していくべきか、私なりの考えをまとめました。危機対応時の多機関間の調整システムについて、DMAT(災害派遣医療チーム)等の保健医療関連の災害支援チームの組織化を参考にしながら紹介するとともに、火山専門家の社会貢献の今後の方向性について皆さんの議論のたたき台になるような情報の提供を試みています。

12. 総説「噴火シナリオと確率論的予測」

著者：中田節也

火山噴火の予測において確定論的な噴火シナリオは、これまでの多くの噴火において破綻してきた。噴火推移は、簡単な物理モデルで表記することが不可能であるため、可能性のある噴火事象を網羅した確率論的な考察が不可欠である。可能な噴火事象を俯瞰し、分岐に確率を付したイベントツリーは2000年代になって思考され始めた。日本の噴火予知研究計画においても、これにやや遅れて、複数の代表的な活動的火山で本格的にイベントツリーが試作され始めた。この論文では予知計画で試作したイベントツリーとその作成の基本的な考え方を紹介している。

13. 総説「わが国における火山噴火予知の現状と課題」

著者：藤井敏嗣

この総説では、最近の我が国の主な火山噴火とそれへの対応を記述することで、火山噴火予知、噴火警戒レベルや噴火警報についての問題点を浮かび上げさせようとなりました。火山噴火予知と火山監視の現状についても触れ、火山専門家が火山監視にあたるという当たり前のことが成立していない我が国の火山防災の問題点を指摘しました。単に火山研究者が足りないという問題ではないのです。また、昨年の活火山法の改定によって、火山研究者が火山防災の現場に取り込まれることとなりますが、そのために実現すべき体制のあり方についても言及しました。社会の中の科学としての火山学のあり方について考えていただきたいと思います。

14. 論説「国東半島、両子火山群—岡ノ岳火山の噴火活動」
著者：堀川義之・永尾隆志・奥野 充

中部九州、国東半島主要部を占める両子火山群は、約2~1Maにかけて活動し、その末期に岡ノ岳火山が形成されました。この論文では、岡ノ岳火山の地質と岩石を記載して一連の噴火活動を報告しています。この火山は、マグマ水蒸気噴火による岡ノ岳火砕サージから始まり、その後、溶岩の流出に移行して岡ノ岳溶岩ドームと山麓の岡ノ岳

block-and-ashflow 堆積物、岡ノ岳貫入岩体を形成しました。全体の噴出量は、DRE換算で0.06km³と推定されます。岡ノ岳火山のSiO₂含有量は63~67wt.%と同火山群の中で高く、MgOの組成変化なども違っています。両子火山群の中央部にある他の溶岩ドームも、これと類似した噴火活動によって形成されたと考えられ、それらの周辺の火砕堆積物の層序が詳しく検討されることが期待されます。

15. 論説「桜島火山・南岳の形成過程—溶岩の古地磁気学的年代と噴出量の推定からの考察—」

著者：味喜大介・小林哲夫

この論文では、桜島・南岳の火山体のうち南斜面に分布する溶岩類の古地磁気学的年代推定と、文明噴火以前の噴出物の体積推定を行い、南岳成層火山の噴出量の大きな時間変化を明らかにしました。その結果、南岳成層火山は、3ka前後の長くても約500年間に断続的に発生した溶岩を流出する活動により、ほぼ現在の形にまで成長したことがわかりました。

16. 解説・紹介「火山ガスの化学分析は世界や日本で誰が最初に行なったか?」

著者：野津憲治

火山ガスの化学分析は18世紀末にはイタリアで行なわれていた。Breislakが1790年頃にCampi Flegrei火山のGrotta del Cane(英訳: Dog's Cave)に充満する噴気の化学分析を行ったことが、1792-1797に出版されたSpallanzaniの研究旅行記に記されている。日本では、19世紀後半の火山調査には火山ガスの記述も見られるが、柴田(1917)による樽前山の火山ガスの化学分析が最初である。この報告ではH₂SとSO₂と水蒸気の混合比が噴気孔ごとに異なることを述べているが、分析法や定量値の記述がない。分析法や定量値の記述がある最古の報告は、菅沼(1929)による那須殺生石の噴気の分析である。

17. 解説・紹介「日本火山学会による登山者向けパンフレット「安全に火山を楽しむために」の発行」

著者：萬年一剛・瀧 尚子・吉本充宏・及川輝樹

昨年の秋学会で配布され、ご好評を頂いたパンフレット「安全に火山を楽しむために」の企画や編集の経緯についてまとめました。今後の改訂の参考になればと思います。

- ・日本の火山活動概況（2015年10月～12月）、その他のニュース

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに3月22日送信しました）